

さけ・ます増殖事業振興調査（親魚回遊経路調査）

（抄 録）

後 藤 悦 郎

前年度に引き続き沿岸、神戸川、高津川について採捕した親魚の回帰尾数、体長組成、体重組成、年令組成などを調査した。また、江川については親魚回帰時期に河川を巡視してその状況を観察した。なお、詳細は別に報告書（島水試資料No.38）があるので参照されたい。

要 約

1. 本県海面、神戸川、高津川でシロザケ回帰親魚を採捕した所、海面43尾、神戸川55尾、高津川109尾の合計207尾を数え、調査を開始して以来最高となった。また、江川では76尾を観察した。
2. 特に高津川は産卵床数、観察親魚数、情報等より1,000尾程度回帰していると思われ、近年にない尾数となり放流の効果がうかがわれた。
3. 採捕時期は海面が10月7日から11月14日で10月下旬～11月上旬が最盛期、神戸川は10月27日から11月11日で11月上旬が最盛期、高津川は10月29日から12月1日で11月中旬が最盛期、江川は10月14日から12月9日までで10月下旬が最盛期であった。
4. 年令は4年魚の割合が高く全体の80%を占め、残りはほとんど3年魚であった。
5. 雌雄比は雌が多く全体の65%で特に高津川は75%を占めた。
6. 北海道産早期卵150万粒を高津川のふ化場で飼育した結果、比較的温暖であったことも幸いして3月16日に体長47mm、体重1.5gの稚魚140万尾を放流できた。天然の親魚が天然産卵した稚魚と比較すると成長はほとんど同一であった。